

2006年3月期 中間決算説明会

内 容

1. 説明

- (1) 2006年3月期 中間業績の概況
- (2) 2006年3月期 決算分析と下期への展望
- (3) R&Dの推進状況

2. 質疑応答

以上

- 日時:2005年11月28日
- 会場:東洋インキ製造(株) 大会議室

本資料中の計画、予想は2005年11月28日現在の認識・前提にたっており、
これからの国際情勢、経済事情、事業環境等に著しい変化があった場合には、
実際の業績が記載と大きく異なる可能性があります。



2006年3月期 中間業績の概況

中計の重点テーマ

2006年3月期経営方針

1. 成果を志向する
スピード経営体制
への移行

1. ねばり強く事業開発、製品開発、システム開発
を成し遂げる

2. 成果に結びつけるブランド力、技術力、マン
パワーのステップアップを図る

2. 価値経営の実践

- (1) 全体最適化戦略と
キャッシュフロー経営
- (2) 個別事業の執行責任

3. CSR重視の真のSSにチャレンジする

(単位:億円)

科 目	2004年 9月期(A)	期初予想 (B)	2005年 9月期(C)	増減(%) (C/A)	期初予想(%) (C/B)	2006年 3月期(予想) (D)	進捗(%) (C/D)
売上高	1,125	1,130	1,148	2.1	1.6	2,350	48.9
売上原価	844		877	3.9			
販売費・一般管理費	212		202	▲4.4			
営業利益	70	60	69	▲0.8	15.2	135	51.2
営業外収益	15		14	▲4.5			
営業外費用	11		9	▲12.6			
経常利益	74	57	74	0.2	30.1	135	54.9
特別利益	1		1	35.9			
特別損失	29		22	▲23.9			
税引前当期純利益	46		53	15.7			
法人税その他	20		24	23.2			
当期純利益	26	22	29	9.9	31.1	60	48.1

(単位:億円)

科目	2004年 9月末(A)	2005年 3月末(B)	B/A (%)	2005年 9月末(C)	C/B (%)
流動資産	1,314	1,316	0.2	1,348	2.4
固定資産	1,360	1,397	2.7	1,425	2.0
資産合計	2,674	2,714	1.5	2,773	2.2
流動負債	940	949	0.9	934	▲1.6
固定負債	473	478	0.9	491	2.6
負債合計	1,414	1,427	0.9	1,425	▲0.2
少数株主持分	36	35	▲2.5	56	60.6

科目	2004年 9月末(A)	2005年 3月末(B)	B/A (%)	2005年 9月末(C)	C/B (%)
資本金	246	246	0.0	246	0.0
資本剰余金	258	258	0.0	258	0.0
利益剰余金	735	750	2.1	767	2.2
その他有価証券 評価差額	28	42	46.7	55	32.7
為替換算 調整勘定	▲42	▲43	***	▲32	***
資本合計	1,225	1,252	2.2	1,293	3.2
負債、 少数株主持分 及び資本合計	2,674	2,714	1.5	2,773	2.2

	連結会社 従業員人数(人)	連結子会社 (社)	持分会社 (社)	総資産	株主資本	株主資本 比率(%)	ROA (%)	ROE (%)	有利子 負債	保証 債務
2005年3月末	6,164	62	10	2,714	1,252	46.1	1.90	4.15	800	29
2005年9月末	6,339	62	10	2,773	1,293	46.6	*2.10	*4.53	780	26
2006年3月末 (予想)	6,300	61	10	2,750	1,280	46.5	2.20	4.74	780	25

* 通期換算



2006年3月期 決算分析と下期への展望

(単位:億円)

	印刷インキ		グラフィックアーツ 関連機器および材料		高分子関連 材料		化成品および メディア材料		その他		消去又は全社		合計	
	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)	売上高 (前期比)	営業利益 (前期比)
2003年 9月期	425 (▲0.5)	44 (1.6)	157 (▲1.0)	1 (***)	203 (▲4.2)	17 (▲16.1)	258 (▲1.6)	34 (▲16.9)	47 (▲16.5)	▲0 (***)	▲31 (***)	▲56 (***)	1,060 (▲2.0)	40 (▲18.2)
2004年 3月期	851 (▲2.6)	91 (0.6)	337 (1.5)	6 (***)	408 (▲2.1)	36 (▲0.1)	535 (1.8)	78 (13.5)	95 (▲7.8)	▲1 (***)	▲61 (***)	▲117 (***)	2,164 (▲0.3)	94 (16.7)
2004年 9月期	429 (1.0)	46 (4.1)	163 (3.7)	6 (443.6)	215 (6.0)	19 (13.7)	286 (11.0)	55 (61.2)	63 (32.6)	2 (***)	▲32 (***)	▲59 (***)	1,125 (6.1)	70 (75.7)
2005年 3月期	878 (3.2)	91 (▲0.5)	331 (▲1.6)	11 (74.4)	430 (5.5)	36 (▲0.6)	578 (8.0)	98 (25.6)	140 (47.3)	4 (***)	▲65 (***)	▲118 (***)	2,293 (6.0)	123 (29.9)
2005年 9月期	449 (4.5)	42 (▲9.8)	173 (5.9)	5 (▲10.2)	217 (1.0)	18 (▲4.4)	291 (1.7)	53 (▲3.3)	53 (▲15.2)	1 (▲68.0)	▲35 (***)	▲50 (***)	1,148 (2.1)	69 (▲0.8)
2006年 3月期 (予想)	914 (4.1)	83 (▲8.5)	325 (▲1.9)	10 (▲11.6)	459 (6.8)	37 (3.0)	626 (8.4)	106 (7.9)	90 (▲35.9)	1 (▲75.9)	▲64 (***)	▲102 (***)	2,350 (2.5)	135 (10.1)

■印刷インキ

(単位：億円)

	売上高	営業利益
2004年 9月期実績	429	46
2005年 9月期実績	449	42
2006年 3月期予想	914	83

通期の施策

1. 埼玉製造所への拠点集約効果を最大限に活用したコストダウン
2. 品種統合により、顧客も含めたトータル在庫圧縮で収益構造変革を推進
3. 中国・アジア・オセアニアでのインキ事業の拡大と増産ラインの軌道化

実行結果

- ❖ 埼玉製造所への生産拠点集約によるコストダウン
- ❖ オフセットインキは、新聞向けが日本・中国で好調も、依然、日本市場では単価下落が継続している
- ❖ グラビアインキは、原材料費高騰による利益減少
- ❖ 上海新会社・マレーシア新工場でグラビアインキを生産開始

下期の展開

- ❖ 原料動向の不透明感が継続
- ❖ 新製品を軸とした品種統合によるコストダウン
- ❖ 原料置き換えおよびトータルSCM見直しによるコストダウン
- ❖ 上海新会社の早期黒字化

グラフィックアーツ関連機器および材料

グラフィックアーツ関連機器 および材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
2004年 9月期実績	163	6
2005年 9月期実績	173	5
2006年 3月期予想	325	10

通期の施策

1. 取り扱い製品のさらなる集中化による収益向上
2. 顧客の業務革新に対する提案の継続
3. 機械機器の取り扱いラインアップと仕入れ先の見直し

実行結果

- ❖ グラフィックアーツ関連材料について、サカタインクスとの共同購買開始により収益向上
- ❖ 設備更新需要による大型印刷機械やデジタル印刷機の販売が好調だが、価格競争の激化により、利益を圧縮した

下期の展開

- ❖ 新型紙面検査装置の開発による販売拡大と収益率の向上
- ❖ デジタル印刷ビジネスについて、日本HP社と協力関係を強化
- ❖ 共同購買拡張による物流効率化と在庫削減

■ 高分子関連材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
2004年 9月期実績	215	19
2005年 9月期実績	217	18
2006年 3月期予想	459	37

通期の施策

1. FPD関連材料事業の拡大推進
2. 原料高騰に見合う収益構造の改善
3. 海外事業の拡大

実行結果

- ❖ 缶用塗料の低迷継続
- ❖ オプト・エレクトロニクス・医療・自動車向け製品を拡充
- ❖ 原油高騰による原材料費の上昇
- ❖ 製品販売価格への原材料費上昇分の適正な反映
- ❖ 接着剤関連はラベル用が好調で、FPD関連など新市場へも拡販
- ❖ 塗工材事業は、エレクトロニクス関連テープが好調に推移

下期の展開

- ❖ ディスプレイ市場や自動車関連市場などに対して、高付加価値製品を提供し、拡販
- ❖ 中国や東南アジアでの供給体制強化と拡販
- ❖ 原料高騰の製品販売価格への適正な反映

化成品およびメディア材料

化成品およびメディア材料

(単位：億円)

	売上高	営業利益
2004年 9月期実績	286	55
2005年 9月期実績	291	53
2006年 3月期予想	626	106

通期の施策

1. 汎用顔料の品種統合によるコストダウン
2. 高機能顔料・分散体の拡販強化
3. プラスチック用着色剤の海外事業展開を加速

実行結果

- ❖ 化成品では顔料は、高機能性顔料が好調に推移。ヨーロッパは価格競争が激化し苦戦
- ❖ 国内の汎用顔料事業は中国へ移管し、グローバル生産体制を確立
- ❖ 着色剤では、中国・北米の新工場が稼働し、拡販が進んだ
- ❖ 液晶ディスプレイカラーフィルター用材料は順調に推移
- ❖ インクジェット材料が売上利益ともに大きく伸長

下期の展開

- ❖ 顔料事業のグローバルな視点での生産体制見直しによるコストダウン
- ❖ 液晶ディスプレイカラーフィルター用材料の生産体制強化と最適化（11月に台湾第二工場が稼働）
- ❖ インクジェット材料・有機EL材料の新製品開発と販売強化により2桁の成長

(単位：億円)

	2004年9月		2005年9月		業績 Review
	売上実績	営業利益	売上実績	営業利益	
1. 日本	948	53.6	950 (0.2%)	56.7 (5.7%)	液晶ディスプレイカラーフィルター用材料の需要が回復。接着剤関連やインクジェット材料・新聞インキの販売も好調。生産拠点集約によるコストダウンや情報システム費用の削減により利益を確保。
2. 中国・アジア ・オセアニア	184	12.7	206 (11.9%)	10.7 (▲15.8%)	中国は印刷インキが好調に推移し、上海や珠海の新会社が本格稼働し、拡販が進んだ。台湾の液晶ディスプレイカラーフィルター用材料の販売が回復。全体に原料費高騰の影響を受け、利益は圧迫された。
3. ヨーロッパ	39	▲1.2	37 (▲5.6%)	▲2.0 (***)	主力の顔料市場でインド・中国製の廉価品の攻勢を受けて苦戦。高付加価値品へのシフトを継続。
4. 北米	45	1.1	52 (16.5%)	0.2 (▲83.1%)	自動車関連のプラスチック用着色剤や塗工材料・メディア材料などの新規事業が大幅に伸長も、イニシャルコストが増加。顔料・インキなどの汎用品が低迷したことにより、利益面では伸び悩んだ。
連結	1,125	70	1,148 (2.1%)	69 (▲0.8%)	

(単位:億円)

	2005年 3月期 売上高	2005年 9月期 売上高 (前年比)	2006年 3月期 売上進捗率	2006年 3月期 売上目標	2005年 3月期 営業利益	2005年 9月期 営業利益 (前年比)	2006年 3月期 営業利益 進捗率	2006年 3月期 営業利益目標
日本	1,913	950 (0.2%)	49.1%	1,935	96	57 (5.7%)	52.0%	109
中国・アジア ・オセアニア	384	206 (11.9%)	50.3%	409	23	11 (▲15.8%)	44.6%	24
ヨーロッパ	82	37 (▲5.6%)	46.2%	80	▲3	▲2 (—)	—	▲3
米国	96	52 (16.5%)	46.8%	111	1	0 (▲83.1%)	9.5%	2
小計	2,475	1,245 (2.4%)	49.1%	2,535	117	66 (▲0.9%)	49.7%	132
消去又は全社	▲182	▲97 (—)	—	▲185	5	4 (—)	—	3
連結	2,293	1,148 (2.1%)	48.9%	2,350	123	69 (▲0.8%)	51.2%	135

ドメイン別主要新製品	半期売上小計	目 標
環境調和型印刷・包装資材材料事業	72.4億円	通期売上目標 177億円 → 170億円
オフセット環境対応新製品 RC(UV, EB)インキ新製品群 ノントルエン包装グラビアインキ 新聞用高演色カラーインキ 他	(年間目標に対する 進捗率 41%)	
機能性材料事業	44.0億円	通期売上目標 80億円 → 100億円
FPD関連製品 光学・電子・メディカル用粘着剤 環境対応マーキングフィルム 高機能性接着剤 他	(年間目標に対する 進捗率 55%)	
電子・情報材料事業	103.6億円	通期売上目標 183億円 → 210億円
カラーフィルタ用レジストインキ IJインキ 有機EL 他	(年間目標に対する 進捗率 57%)	
合 計	220.0億円	通期売上目標 440億円 → 480億円 に上方修正
	(年間目標に対する 進捗率 50%)	

■印刷インキ

成長地域における生産体制の強化

- マレーシア・上海・韓国で新工場稼働

■グラフィックアーツ関連機器 および材料

提携強化によるトータルソリューションの提供

- 日本HPとデジタル印刷機事業で提携強化

■高分子関連材料

事業の川下展開と成長市場への参入

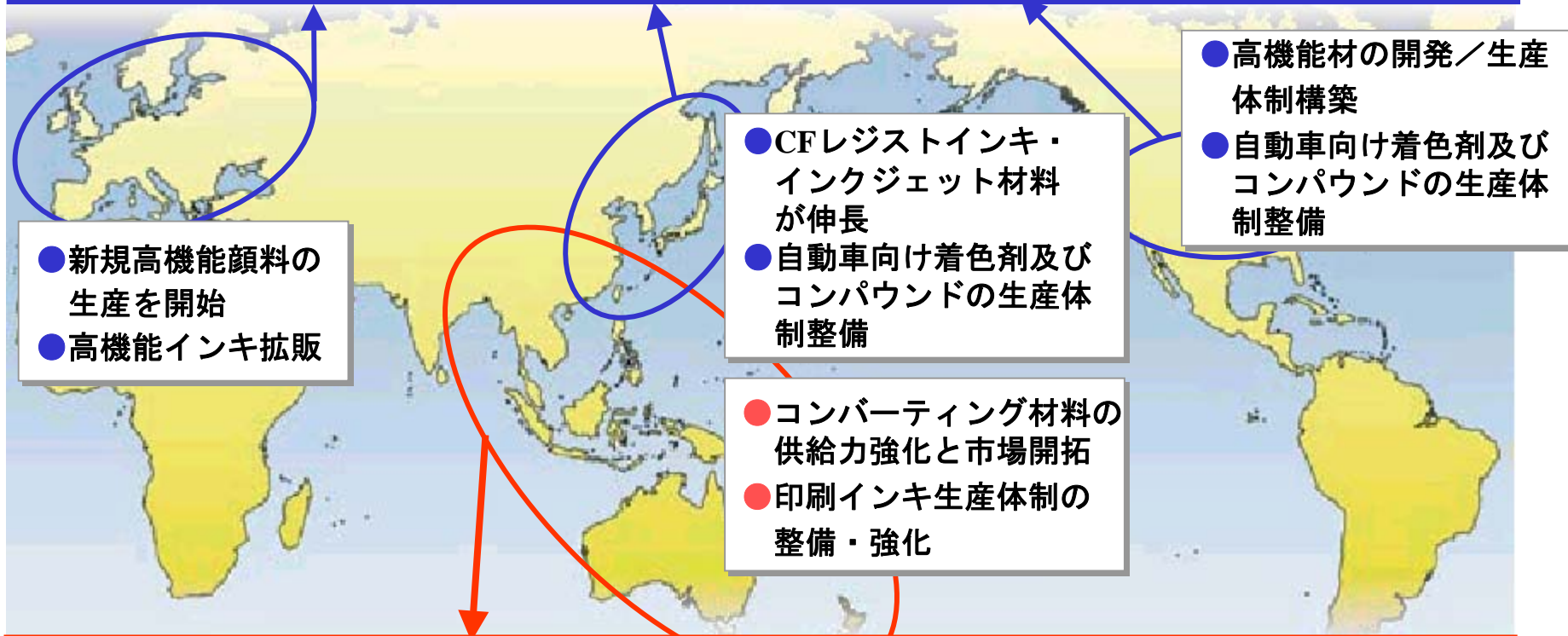
- 粘接着剤の高機能化をはかり、オプト・エレクトロニクス・医療・自動車市場へ新製品を投入
- コンバーティング材料事業の強化（韓国・上海）

■化成品およびメディア材料

色素・材料からの一貫した開発によるスペシャリティケミカルの更なる追求

- 液晶テレビ向け高性能レジストインキを投入
- 産業用インクジェットプリンタ向けインキ材料の拡大
- 自動車向け着色剤のグローバル展開
（ヨーロッパ・アメリカ・中国・東南アジア）

■ 日中韓・北米・欧州地域：スペシャリティケミカルの展開



■ 中国・アジア・オセアニア：拡大する市場への事業体制の強化

メディア材料事業本部

■ インクジェット材料

- 海外事業を中心に急速に伸長

■ カラーレジストインキ

- 台湾生産拠点の拡充
- 業界一位の品質を維持

■ エレクトロニクス出力機関連材料およびシステム

- 高分子材料のエレクトロニクス分野への拡販
- 有機EL材料は市場成長に対応



R&Dの推進状況

開発経営力による事業展開

グラフィックアーツ関連及び材料

システム展開

印刷インキ
(地域を絞ったグローバル化)

水平展開

川上
展開

川下
展開

スペシャリティ化
した顔料

高度化した樹脂
素材

塗加工材料

高分子・メディア材料

環境調和型印刷インキ・
コンバーティング材料事業

機能性材料事業

電子・情報材料事業

ポリマーテクノロジーを土台とした高分子事業・機能性材料の展開

NEXT21開発プラン（2003～2006年）

■ 戦略的開発ユニット

バリアーコート剤開発	食品包装用コート剤 エレクトロニクス用コート剤
表示デバイス周辺材料開発	次世代レジスト材料 光学制御コーティング剤
レジスト材料開発	RFID用印刷アンテナ材料 FPC関連材料 ICパッケージ用レジスト 光開始剤
有機EL材料開発	ディスプレイ用素材
太陽電池関連材料開発	グレッツェル型増感色素 電極ペースト材料

高分子材料のバリューチェーン



ポリマーテクノロジーを土台に成長市場へ展開

<p>FPD関連材料</p>	<p>FPD用光学粘着剤 光学フィルム用接着剤 光学ハードコート剤用樹脂 及び塗工材</p>
<p>エレクトロニクス材料</p>	<p>FPC用耐熱接着材料群 (耐熱シート 耐熱接着剤) 研磨パット用粘着テープ 他</p>
<p>ライフサイエンス材料</p>	<p>医療テープ用水性粘着剤 ササマスク ササフィルター 他</p>
<p>自動車内装関連材料</p>	<p>低VOC溶剤型粘着剤 水性粘着剤 他</p>

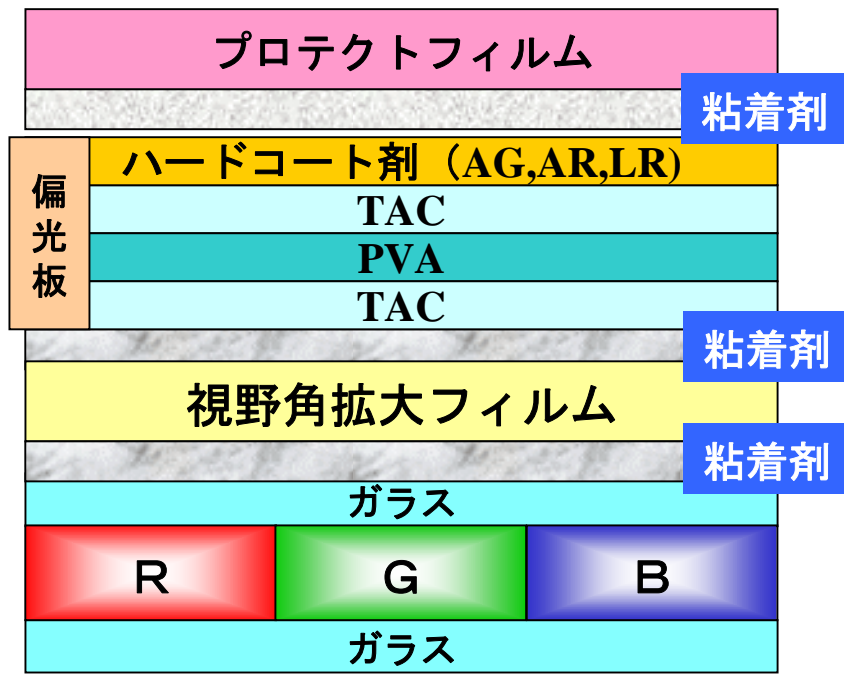
市場のトレンド

- ・ FPD向けアセンブリ材料の中で、特に大型TV用が急伸長

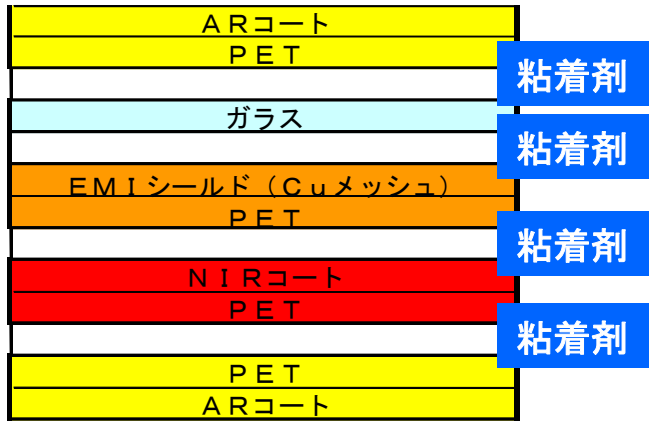
開発の方向性

1. 大画面光学適性（光漏れ改良）に特徴を有す粘着剤
2. 光学プロテクト：大画面对応の粘着剤

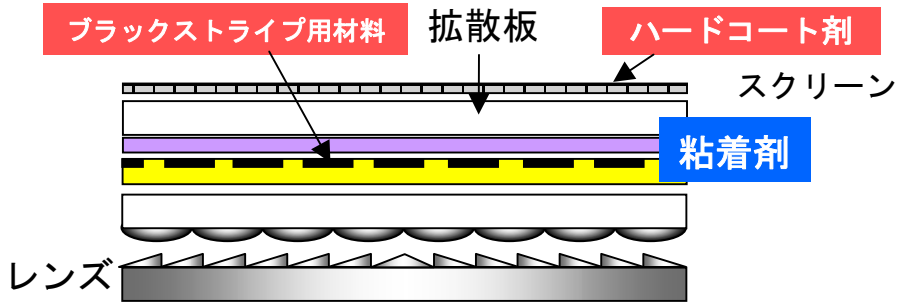
液晶



PDP

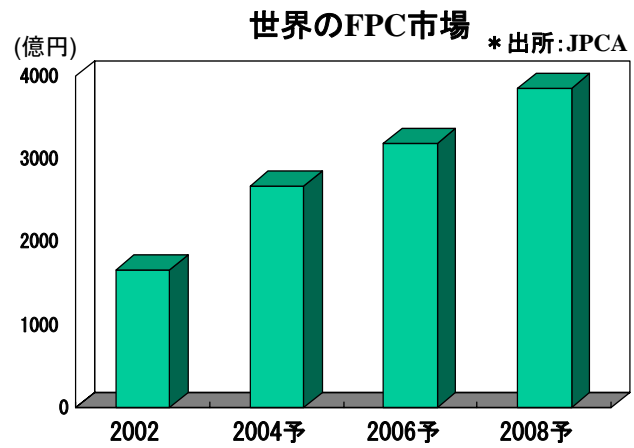


リアプロジェクション

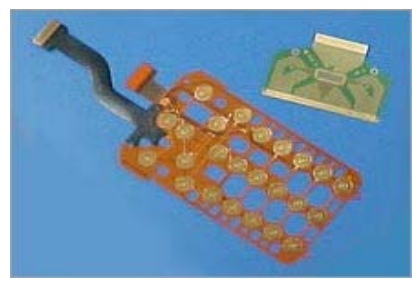


市場概況

FPC市場は年率20%で伸長



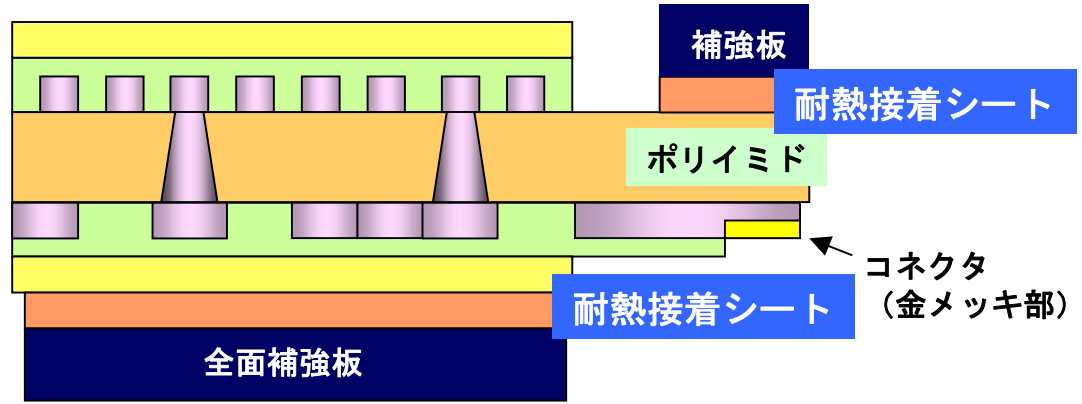
フレキシブル配線盤



ニーズ

- 高性能化**
 - FPCのメイン基盤採用化による高度耐久性の要求
- 環境対応**
 - はんだの鉛フリー化による耐熱温度の上 (230°C⇒260°C)
 - 接着剤のノンハロゲン化

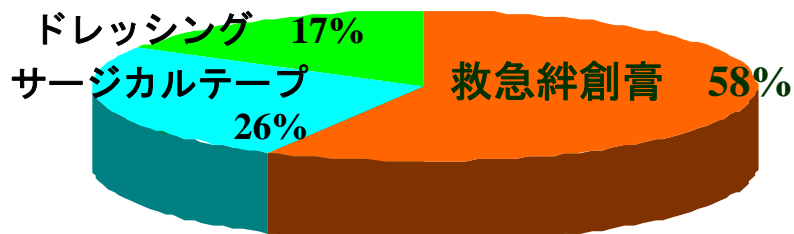
FPC部材接着剤



新規耐熱接着剤を開発し展開→機能性素材から塗加工までカバー

市場概要

医療用粘着剤市場（救急絆創膏、サージカルテープ、ドレッシングテープ）は、年5~10%の成長が望める。



位置づけ

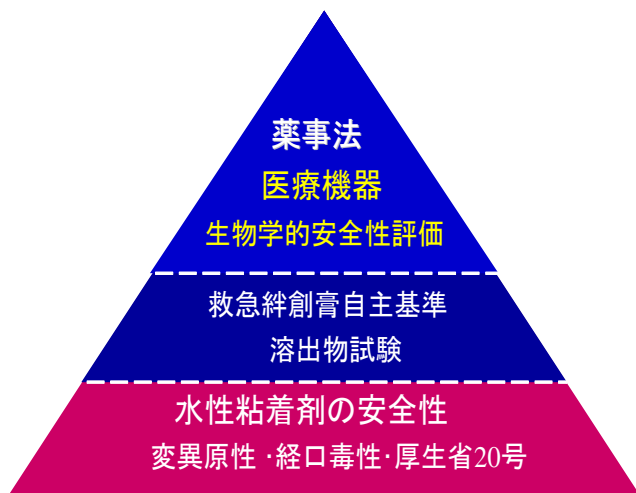
溶剤型から水性エマルジョン型粘着剤への転換

狙う市場

新市場&高付加価値製品である

医療テープ市場に展開する

安全衛生性基準をクリアー



医療テープにおける国内初の水性エマルジョン型粘着剤の開発

優位点

- 低刺激性
- 耐水粘着力